

にし西

■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1

TEL 641-2400 内線224~226 FAX 641-2405

◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時~

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

◎区民のページ 2004・8



まちの人



手染めキルト絵作家

うえだ ばく
植田 莫さん(58)

●手染めキルト絵とは

天竺木綿を染料で染め、墨を使うなどして描き上げる独自の技法による絵画。全体に薄綿を仕込み、ポイントになる小動物や人物は別染めを施し、綿を詰め、地布に手縫いで縫い付けて仕上げる。

莫工房 西区福井9丁目4-50
TEL 663-6191



■植田さんの作品「砂がぼこぼこ旅はさみしい」

福井地区の山あいに工房を構える植田莫さんは、「手染めキルト絵」という独自の技法による絵画を制作しています。立派なあごひげがトレードマークで、仲間からは「バクさん」と呼ばれています。植田さんは兵庫県の出身。本州でデザイナーとして会社に勤務した後、三十四歳のときに退職し、独立しました。高校時代から油絵を描いていた植田さんですが、手染めキルト絵を始めたのは、今から約二十年前。当時、奥様が作っていたパッチワークを見て、自分は染料を使って絵にしてみようと思ったのがきっかけ

山頭火の感性にあこがれて

植田さんは、「こんなやり方をしてる人は誰もいないと思う」と話す植田さん。はけと筆を使い、染物のように描き上げる技法は、京都の手描き友禅に似ていますが、表現の仕方は全く違うそうです。また、人物や動物は同じ染料で描いた布を糸で縫い付けます。写真では分かりにくいのですが、実物を見ると、鮮やかな色合いの背景に立体的に浮かび上がる人物が、とても印象的です。

植田さんは、全国を放浪した禅僧で俳人の種田山頭火の俳句からイメージした作品を数多く発表しています。二十代半ばに山頭火のことを知りましたが、最初は「変なものをつくるおやじがいるんだな」と思ったそうです。しかし句の意味を知ると、豪快さと繊細さが同居する山頭火の人間性にひかれ、「いつかは山頭火の作品を染料でつくりたいと思うようになりまして」。中でも好きな句は「鉢の中へも霞」だといいます。昨春秋に現在の場所に自宅兼工房を新築した植田さん。時折顔をさせる野鳥やエゾリスたちに囲まれ、また素晴らしい作品が生まれそうです。

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがきファクスEメール nishi@city.sapporo.jp 西区総務企画課広聴係(上欄)へ。